

徳田先生からのメッセージとしては
(ネット上の情報も交え) …….

①総合診療科のメリットとしては、

患者さんは入院、退院、外来、在宅や施設と段階を進んでいきます。医師、ジェネラリストとして患者さんをケアするにあたって継続的に最初から最後まで中心的に舵取りができます。これは総合診療専門医の大きなメリットです。(イチロー型のオールラウンドプレイヤー)そして、総合診療専門医は医療系職種の中で中心的な存在であり、医療系職種とコラボレーションできる立場であり、それらをつなぐ役割を果たすことができると思っています。また、総合診療医はジェネラリストとして、その場にあった役割を果たすことができると思っています。

病気を治療するという視点以外に、パブリックヘルスに関する活動もジェネラリストには必要な視点です。地域や社会の健康増進にとどまらず、幸福とはなにか?地球環境はどうするか?など、医学を超えたマインドを持つことが大切です。ジェネラリズムという考えから医学を超えたマインドを持つことでイノベーションを起こすこともできます。社会学者や言語学者などとの共同研究等の活動も可能ですし可能性は広がっていると感じています。

②他職種との関わりで心がけていること

医師は“自分たちが中心的な役割を果たしている”という意識があります。しかし実際はいろいろな現場(病院・診療・在宅など)でコメディカルの助けがあるから成り立っています。各職種は資格をとったプロですから、医療チームのメンバーとしてリスペクトして関わるのが大切です。

医師はチームのマネージャー的な役割を果たす立場になるので、適材適所で各職種の強みを生かすというマネジメント力が必要になってきます。得意分野をどんどん伸ばす事で、各個人がハッピーに働ける職場になります。そんな職場に人も集まってくる。

世界の医学教育の中でマネジメントスキルが重要である事が認識されており、イギリスでは医学部の教育にも取り入れられています。コミュニケーションスキル、ネゴシエーショ

ンスキルなどがあり、マネジメントスキルを学ぶ事は、テストで良い点を取る事とは違う、いろいろなインパクトがあります。

③学生、若手(研修医)に向けてメッセージ

日本の医師はすごい勢いで一人ひとりのパフォーマンスが伸びてきています。この10年間で研修制度が必修化されたり、各病院が競ってプログラムを充実させた事に加えて、日本人は元々まじめで優秀です。土日も夜遅くまで勉強するという、他の国ではありえない現象が全国各地で起こっています。

このため10年後には日米の立場が逆転し、日本の医師の方がいろいろな意味で(技術・知識面等)アメリカを抜いていると思います。私は総合内科の領域においては日本が世界の頂点に立つと予言しています。ぜひこの予言を皆さんに実現して欲しいです。

そのためには皆さんが世界中に情報を発信しなければいけません。世界に発信するツールとして医学英語を勉強し、国際的な雑誌・本などに発表するなどグローバルなチャレンジをして欲しいです。皆さんだったら出来ると思っています。

上記 ①～③のような熱いメッセージを込め、会場いっぱい感動を与えて下さって、約2時間にも及んだのに、あっという間に終了時刻が来てしまったという感じでした。充実し学ぶことの多かった講演会が成功裏のうちに幕を閉じました。(終了後も多くの学生さん達からの直の質問が続いておりました。)

